

資 料

平成 21 年度事業計画

2009 年 4 月 1 日

財団法人日本セーリング連盟

財団法人 日本セーリング連盟
平成 21 年度事業計画

平成 21 年度 JSAF 実行計画と基本方針

実行計画

1. JSAF 財政健全化プロジェクトの実施
財政健全化推進計画に関する各種プロジェクトの実施
会員増強に向けたメンバー制度の検討
2. JSAF 増収に向けた事業委員会の積極的な取り組み
3. 国際セーリング競技規則の改定に伴う各種資格の更新および認定
4. 国内開催の世界選手権大会の成功に向けた取り組み
レーザーラジアル世界大会やテーパー世界大会など
5. ジュニア普及強化のためのセーリング・アカデミーの実施
6. ナショナル・トレーニング・センター(和歌山)の活用
7. 外洋レースの活性化、組織強化および艇登録推進
8. 新公益法人移行検討および指定管理者制度の促進
9. ロンドン・オリンピック(2012 年)に向けた選手強化
10. 東京オリンピック招致の実現(2016 年)に向けた取り組み

基本方針

普 及

- ・会員の増強 加盟団体や特別加盟団体との連携、大学やクラブ OB の勧誘
- ・組織の確立 継続性の検討(高体連・学連・一般)、指定管理者制度の促進
- ・財政健全化 財政健全化推進策の実施、増収対策検討、賛助会員の獲得

文 化

- ・指導者の育成 ジュニアの指導、スポーツマンシップとフェアプレー
- ・広報活動 戦略的な広報活動検討、外洋レースや地方のレースの広報
- ・環境活動 海の日キャンペーン、全日本大会での環境思想普及
- ・特徴あるレース 地方メディアとの協力など

勝 利

- ・2012 年 ロンドン・オリンピックでのメダル獲得に向けた活動
- ・2016 年 東京オリンピック実現に向けた活動
- ・新潟国体および千葉国体リハーサル大会の成功
- ・ナショナル・トレーニング・センターの活用

総務委員会（委員長：中山 明）

- 1．連盟組織運営基盤の整備
 - （１）公益法人改革 3 法施行への対応策を連盟の新ステージ構築機と位置づけて推進させ、組織運営制度の検討を行う。
 - （２）加盟団体と特別加盟団体との機能的役割の整理を他委員会と強調して推進する。
 - （３）加盟する団体の権利と義務内容の具体化を進める
- 2．諸規程の整備
 - （１）現行規程、規則内容の整理を進めると共に連盟規程・規則集の発行を検討する。
 - （２）特別加盟団体の加入資格要件を検討し、既加入団体の権利義務関係を調整する。
- 3．業務合理化の推進
 - （１）メンバー管理方法の簡便化とデータの有効活用を IT 委員会と協調して推進する。
 - （２）連盟資料のデータベース化を促進し業務内容の高質化、効率遂行を目指す。
 - （３）事務機器の活用方法を検討し、組織コミュニケーション能力の向上を図る。
- 4．表彰関係活動の充実
 - （１）連盟表彰を組織の活性化促進策として規程に則り実施する
 - （２）外部への表彰機会を逃さず対応し、セーリング活動を通じた社会的貢献の成果を PR する様に努める。
 - （３）外部団体より表彰された会員の表彰記録を整備し組織活性化に活用する。

会計委員会（委員長：安藤 淳）

- 1．各事業の会計報告が速やかにできるようにする。
- 2．予算執行の適正な管理を行う。

財務委員会（委員長：石橋國雄）

- 1．健全な財政確保を目的とする。
- 2．各方面からの協力者を開拓する。

国際委員会（委員長：戸張房子）

- 1．国際セーリング連盟（ISAF）会議へのカウンスル、委員派遣
 - （１）ミッドイヤーミーティング 2009.5.7~5.11 ワルシャワ（ポーランド）
出席予定者：大谷たかを
 - （２）年次総会（11月5~16日・韓国プサン）
出席予定者：大谷たかを、柴沼克巳、小林昇
- 2．ORC リミテッド会議への kongress・メンバー派遣
 - （１）年次総会（11月5~14日・韓国プサン）
出席予定者：河野博文、小林昇

- 3 . アジアセーリング連盟会議への JSAF 役員(前田専務理事)派遣 (開催未定)
- 4 . 国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供
- 5 . 日本から海外への情報発信
- 6 . 競技力向上委員会と協力し、日本でセーリング普及を推進するために ISAF が始めたコネクト・トゥ・セイリング・プロジェクトおよびユース・セーリング・プロジェクトの導入推進
- 7 . オリンピック特別委員会と協力し、オリンピックセーラー育成の国際情報収集・提供。海外 MNA との友好関係の構築・強化、交流の促進
- 8 . ルール委員会、レース委員会、ワンデザイン計測委員会と協力してルールおよびレース・マネジメントに関する情報収集、並びに IJ, IU, IRO, IM の育成サポート

広報委員会 (委員長: 大山俊哉)

- 1 . ステークホルダーとの関係強化を図る
 - (1) 連盟・オリンピック委員会への協賛スポンサーへの付加サービスの提供
 - (2) 連盟登録会員へのサービスの提供
- 2 . J-Sailing の編集・発行
 - (1) 「J-Sailing」を年間 6 回発行とする。
 - (2) 全 3 2 ページ、カラーとする。
 - (3) 広報委員会(柳沢編集長)にて自主編集とする。
 - (4) 今年度は、連盟スポンサー関連用のコラムを設け、サービスの拡充を図る。
 - (5) 今年度は、連盟会員からの情報ページの充実させ、サービスの充実を図る。
 - (6) 発注先や方法の見直しにより、発行経費の削減に努める。
 - (7) 発送は「宅配方式」を継続する。
- 3 . ホームページの充実・活用
 - (1) 引き続き、充実を図り、会員への情報提供・交流の場として活用していく。
 - (2) JSAF として必要な情報と、広報的に考えて必要な情報の充実を図る。
- 4 . 報道機関に対する広報対応
 - (1) 報道機関の「セーリング担当者リスト」の改訂・活用
 - (2) 報道機関に対する J-Sailing の送付
 - (3) 報道機関とのコミュニケーション・親交を図る
 - (4) 記者会見等の開催
 - (5) 広報資料・キットの配布
 - (6) 「記者懇談会」の実施の検討
- 5 . セーリング全体の認知・イメージアップのための広報活動
 - (1) セーリング環境に近い機関・施設(ローカル CATV・FM 局、マリナなど)との協業機会の創出

- (2) メディア・CM等へ露出の機会を探る
 - (3) 一般客が多いエリアでのレース観戦・レース告知への協力
 - (4) 国体・プレ国体等の報道関連協力(報道部)
 - (5) JSAF主催・共催イベント等への協力、広報活動
 - (6) ボートショーでのイベント開催。
6. 事業開発委員会との連携による販売増への貢献
- (1) J-Sailing 誌面上におけるグッズ通信販売の検討
 - (2) JSAF・HP上でのグッズのネット販売の検討

事業開発委員会 (委員長:平賀 威)

1. 委託販売制度の実行
加盟団体、特別加盟団体、水域ヨットクラブ、マリーナショップ、ヨット用品業者への委託販売
2. ショップ販売の拡大
新潟国体会場、横浜国際ボートショー、関東ヨットマンズクラブパーティ、JSAF 新年会、レース開催会場での表彰式・パーティ会場、加盟団体のイベント会場、ロンドンオリンピック選手激励会
3. JSAF ロゴ入り商品の開発
トレーナー、ポロシャツ、Tシャツ、タオル、ライフジャケット、サングラス、タンブラー等
4. ロイヤリティビジネスの試行
5. JSAF ロゴマーク使用許諾権を協賛会社に販売
6. J-Sailing 誌上での予約販売(ブランド商品)
7. ヨット用品(ブランド物)のメーカーに働きかけ、受注発注の形式で JSAF ロゴ入りの商品を発注し、会員に対し予約販売する
8. ネットショッピングの導入
9. JSAF-Web 上でのネット販売のシステムを確立する
10. 2009 年 JSAF オリジナルカレンダー(卓上型)の企画・製作
各加盟団体から写真の提供を受け、レーススケジュールの入ったオリジナルカレンダーの製作・販売
11. 在庫の圧縮
商品別月末在庫を把握し、滞留在庫を減額する。
12. メンバー及び主催者責任保険の取扱い

ドーピング裁定委員会（委員長：柵橋善克）

1. アンチドーピング行為が発覚した場合に、競技者に課すべき処遇を検討する。
2. 今後の裁定時における、JADA の判決と当委員会裁定との整合性の必要度などの課題につき、委員会外の意見も参考にしながら検討する。

レース委員会（委員長：名方俊介）

1. レースオフィサー認定講習会（試験）の実施
2. レースオフィサー等有資格者のためのレース運営セミナーの開催
3. 外洋艇レースマネージメント・マニュアルおよびトレーニングキットの作成、ならびに外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の企画（外洋統括委員会と共同で）
4. レースオフィサー・トレーニングキットの改正と充実（CRO、NRO および ARO）
5. 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立
6. ヤードスティック・ナンバー（2009年版）の発表
7. チームレースの普及、支援活動
8. マッチレースの普及、支援活動
9. 管理水面における安全対策及び危機管理マニュアル等の充実
10. レース運営の省力化、記録・成績表作成作業の効率化及び近代化の研究
11. JSAF 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援体制の構築
12. その他
13. 上記各事業達成のためのレース委員会活動

レースオフィサー小委員会（委員長：長塚奉司）

1. レースオフィサー制度の維持・管理
（資格更新等の検討、レースアドバイザー制度の確立を含む。）
2. 認定講習会、試験の計画と実施（講師の養成を含む）
3. ルール改定に伴うレース運営資料等の整備
4. レースオフィサー等有資格者のためのレース運営関連セミナーの計画と実施
5. 外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の実施と資格管理（外洋統括委員会と共同で）
6. レースオフィサー・トレーニングキットの改訂、充実と管理（CRO、ARO および NRO）
（レース・マネージメント小委員会と共同で）
7. 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立
8. ISAF インターナショナル・レースオフィサーに関する情報の管理等
9. その他

レースマネージメント小委員会（委員長：大原博実）

目標：広告及び主催に関して、ルールに基づいたレースが全国展開されることを目標とす

る。

「重点的取り組み事項」

1. JSAF 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援
2. 広告規定（主催者広告と個人広告）に関しての手引書の充実および適切な広告運用の啓蒙
3. 全日本大会等の JSAF 公認審査について、事前審査システムの制度化
4. 記録作業の効率化と近代化、成績表作成ソフトの充実とその管理、運用
5. レースオフィサー小委員会等と連携して、改訂ルールに基づくレースマネージメント・マニュアルの研究

「継続的取り組み事項」

1. 管理水面における安全対策、および危機管理マニュアル等の充実
2. レース公示、帆走指示書、大会運営マニュアルの研究
3. ヤードスティック・ナンバーの調査、研究、普及
4. ISAF に対する JSAF レース委員会からの質問及び提言
5. 広告カテゴリーを中心に各クラスルールの収集整理、研究
6. ホームページ、J-Sailing 掲載記事、ホームページ Q&A 掲載用回答の作成

チームレース小委員会（委員長：松原宏之）

1. レース運営全般の調査、研究（レース・マネージメント小委員会と連携）
2. チームレースの指導育成と普及
3. 担当レースオフィサーの育成
4. 全日本大会・帆走指示書ガイドの作成
5. その他

マッチレース小委員会（委員長：一木正治）

1. レース運営全般の調査、研究、普及
2. マッチレース・セミナーを開催（JYMA 主催）
3. ユースの育成（具体的な計画は現在検討中）
4. マッチレース・マネージメント・マニュアルの完成と充実
5. 海上運営部分は一応完成しているのでこの充実を図るとともに、パート 2 としてレース企画・開催等大会運営部分を作成予定。
6. 担当レースオフィサーの育成
7. 個々に希望者を募りながらマッチレース実戦の場で OJT を行う
8. 全日本大会・帆走指示書の雛形作成と充実
9. JSAF と当該協会等の連絡、調整
10. その他

ルール委員会（委員長：川北達也）

1. ルール関連資料の邦訳・発行

セーリング競技の根幹である RRS 及び ISAF 規定、関連規則等を、ナショナルオーソリティとして、邦文化して会員へタイムリーに提供する。ISAF 規定（毎年）、RRS と Case book, Call books（4年に1回）の改定と都度の追加修正（補遺版）に合わせて、これらを邦訳して展開している。これらのうち新ルールブック邦訳版（改定 RRS）は H20 年度に発行済み。RRS 改定を受けた新版 Case book, Call books の邦訳書を発行。販売。ISAF 規定を邦訳してルール委員会 Web と冊子（実費）で展開。

2. ジャッジ・アンパイア関連書の邦訳・発行

ISAF 発行のジャッジ、アンパイア向けマニュアルの邦訳・展開により、国内ジャッジ、アンパイアのレベル維持・向上を図る。ジャッジ・マニュアル、アンパイア・マニュアルの最新版・補遺版を都度タイムリーに邦訳・展開している。

3. 国際ジャッジ・アンパイア（IJ/IU）の育成

世界に通用するジャッジ・アンパイアを発掘養成することで、ナショナルオーソリティとしての世界での地位向上と国内レースの質の向上を図る。認定要件である海外レースを経験させるための IJ/IU 候補者への渡航費補助、IJ/IU 資格者等による機会獲得支援、国内開催レースへ海外 IJ/IU の招聘等。

4. ナショナルジャッジ・アンパイア講習会の開催（NU 認定、NJ-A 認定、スキルアップ）

ナショナル A 級ジャッジ（NJ-A）、アンパイア（NU）を養成することで、国内レースの質の維持・向上を図る。今年度は RRS 改定に合わせ NJ-A 認定講習会は 3 回開催する。また、NJ-A のスキルアップ講習会を 3 カ所で開催する。

5. B 級ナショナルジャッジ（NJ-B）認定のための付帯業務

国内の初級ジャッジの養成。認定講習会・試験を実施する加盟団体・特別加盟団体へ、試験問題に加えて、講習用補助資料や講師用マニュアルを新規作成して提供。認定業務と認定証発行業務を実施。

6. JSAF 主催大会等へのジャッジ・アンパイア派遣

国内レースの質の向上とナショナルジャッジ、アンパイアの養成。国体・選考レースを始めとする JSAF 主催大会等へのジャッジ、アンパイアの派遣

7. 選手・指導者向けルール講習会の開催

改定 RRS の早期浸透を図る。また、特に初級選手やその指導者へのルールブック普及とルール理解を促進するとともに、ルールに関連した観点からセーリング競技をより魅力的なスポーツにすることで競技人口拡大にも貢献する。全国 10 カ所程度で講習会実施。新ルールブック所持を受講条件とする。従来普及率の低かった初級選手・指導者層へのルールブック普及による実質収入増と合わせて収支をプラスとする。

8. ルールブックの普及

セーリング競技の根幹であるルールブック（RRS，JSAF 規程）の JSAF メンバーへの普及率を向上させる。ルールブックを増刷（平成 21 年度で 1,000 冊）。上記 7 の講習会や、ルール委員会 Web やジャッジ・ルール代表者メーリングリストを利用してルールブック普及(800 冊追加販売)を図る。

9. ルール・ジャッジ情報の展開

ルール・ジャッジに関する会員との接点を増やし、JSAF としての会員サービスを向上。J-Sailing とルール委員会 WEB ページでの情報展開を継続。WEB ページのコンテンツを都度更新。ジャッジ・ルール代表者のメーリングリストの有効活用により、提供情報の種類と量を拡充。

10. ジャッジ・アンパイア制度見直し検討

ジャッジ・アンパイアの質の向上と、レースオフィサー制度との整合を取れる制度への見直し。NJ-B とレースオフィサーの各々に要求するルール関係の知識・内容を整理し、共通部分をカバーする新資格制度導入を検討。委員会をまたぐ検討会を実施し、整合の取れた認定資格制度案を策定

ワンデザインクラス計測委員会（委員長：末木創造）

1. ERS 改正に伴う更新講習会の実施
2. ERS 及び RRS 改正によるクラスルール改正に伴う各クラス計測講習会実施の支援
3. ワンデザインクラス計測委員会の拡充
4. 各クラス協会等との関係の調整と確立
5. ワンデザインクラス計測委員会のホームページの充実
6. JSAF 運営規則・ディングー系全日本選手権大会に基づく計測条項実施に伴う各クラス公式計測員の認定、名簿管理等と全日本選手権大会用計測用紙（計測項目等一覧表）の作成
7. ワンデザインクラス計測委員会業務処理要領の改定
8. 国体及びリハーサル大会の計測部員の推薦と計測運営マニュアル等書式一式当該年度版への修正作業
9. その他

競技力向上委員会（委員長：箱守康之）

競技力向上委員会はオリンピック特別委員会と連携し、次世代を担う選手の育成・強化を行い、世界に羽ばたく選手を輩出するために以下の事業を行う。

1. ジュニア・ユース競技力向上事業

（1）海外派遣事業

- ・ 2009 年 ISAF ユース・ワールド選手権大会派遣（2009 年 7 月 9～19 日、ブラジル）

- ・ 2009年470ジュニアワールド選手権大会派遣（2009年7月10日～7月18日、ブラジル）
- ・ 2009年アジアユース選手権（2009年7月2日～7月10日、シンガポール）
- ・ その他ユース五輪（2010年）種目ワールド大会（バイト級、テクノ級）

（2）国内強化事業

- ・ 2009年度ユース・ワールド派遣候補選手強化合宿兼代表最終選考会（2009年3月20日～3月25日、和歌山県 レーザーラジアル、420、RS:X）
- ・ 470ジュニア・ワールド日本代表選手選考会（2009年2月11～15日、和歌山県）
- ・ ユース・ワールド、470ジュニア、アジア選手権代表選手強化合宿（2009年5～6月、和歌山県 種目：レーザーラジアル/RS:X級/420級/470級）
- ・ 2009年6月（JISS）
- ・ 2009年度ユースナショナル候補チームの認定
- ・ 2009年5月開催 JOCジュニアオリンピックカップ、江の島オリンピックウィークおよび競技力向上委員会、艇種別協会の推薦により決定
- ・ 各水域で実施するジュニア/ユース対象大会により決定
- ・ アジアユース選手権代表選考会（2009年5月2～4日、佐賀県唐津市）
- ・ 同ユースナショナル候補チームの強化合宿（2009年12月下旬、和歌山 NTC）
オリンピック特別委員会と連携したNTトップ選手による指導

（3）国内大会およびクリニックの開催

- ・ JOCジュニアオリンピックカップ（U-19） 2009年5月2～4日、唐津
- ・ JOCジュニアオリンピックカップ（U-12） 2009年8月29～31日、和歌山 NTC
- ・ JSAF和歌山インターナショナルレガッタ2009（2009年9月1～6日）

（4）ジュニア・ユース有望選手発掘事業（ゴールドプランの推進）

- ・ 全国高等学校選手権（インターハイ）、ジュニアオリンピックカップ及びOP級全日本選手権大会時に将来性を有する有望選手の発掘
- ・ 各年齢層の有望選手データベースの整備（全国対象）
- ・ 各水域での一貫指導推進の指導者の配置、決定（全国8水域）
- ・ 海外に羽ばたく選手派遣協力（ジュニアクラブ、高体連、学連責任者の意思統一）
- ・ 2016年五輪に向けたユース選手の強化

2．国際交流の推進

（1）海外コーチ、選手招聘合宿、大会の開催

NZL選手、コーチとの合宿（3月予定）

（2）海外情報の収集（JISS、JSAF国際委員会との連携）

3．国内優秀指導者、若手指導者の育成と指導体制づくり

（1）指導者講習会の実施

- 2009 年度強化合宿、大会開催時に一貫指導システム指導者講習会の開催
- (2) ゴールドプラン水域指導者研修会の実施
 - (3) オリンピック特別委員会と連携した N T 強化合宿での指導者研修の実施
- 4 . 医事・科学委員会と連携した医科学サポートの実施
- (1) 身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施
 - ・ 医科学サポート
 - ・ フィットネスサポート
 - ・ トレーニングサポート
 - ・ 栄養サポート
 - (2) アンチドーピング活動
 - 地域指導者講習会時にアンチドーピング啓発活動を実施
- 5 . その他
- (1) 競技力向上委員会ホームページの整備と活用促進
 - (2) 和歌山 N T C (ナショナルトレーニングセンター) の活用
 - (3) ジュニア・ユース期の体力向上と人間性涵養の教育

指導者委員会 (委員長：小山泰彦)

- 1 . 公認指導者養成講習会を開催する。
- (1) 本年はコーチを養成する。
 - ・ 20 人の養成を目標に、関東水域 (神奈川県で開催の予定) で開催する。専門科目はジュニア、ユースのコーチ養成を主とした講習内容とし、前期講習は 12 月、後期講習は 2 月に開催の予定。
 - ・ 指導員の受講希望者がいる県連では、県体育協会と連携して、指導員を養成する。東京都連などから相談がある。
 - (2) 公認指導者養成講師研修会を開催する。
 - ・ 例年の通り、競技力向上委員会、オリ特委員会と連携してジュニア、ユースの一貫指導に関する研修会を開催する。
 - ・ 会場は和歌山 J S A F ナショナルトレーニングセンターとし、12 月もしくは 3 月に行われるユース合宿と同時開催とする。
 - ・ 講師は、ナショナルチームメンバーなど、若い指導者、コーチから学ぶ研修会とする。
 - (3) 全国安全指導者養成講習会 (略称：全国講習会) を開催する。
 - ・ 理事・役員の積極的参加を御願ひし、連盟全体での取り組みを発展させる。
 - ・ 笹川財団、B & G 財団、日本舟艇工業界と、より綿密な連携をとり魅力ある会議とする。
 - ・ 21 年度は安全を中心に、より具体的なテーマで開催する。

- ・ 会場は例年お通り夢の島マリーナとし、11月14、15日開催とする。(予定)
- (4) バッジテストシステムの検討
- ・ 20年度の全国講習会での議論・検討の結果をふまえ、各水域の関与によりバッヂテストの仕組みや内容の検討を更に続ける。
 - ・ 現システムの長所を生かしつつ、セーリングに携わるすべてのものが保持することに誇りが持てるようなシステムの構築を検討する。
 - ・ バッジの取得を契機として、セーリングの普及が図れ、さらに日本セーリング連盟の会員になることにも誇りを持てるようなシステムとなるよう検討する。
 - ・ 競技規則の変更に関した学科問題を検討する。

レディース委員会 (委員長: 倭 千鶴子)

1. セーリング体験

- (1) 全くセーリングにかかわった事の無い、女性、ジュニア、中高年男女を、対象とし、新聞、雑誌、ラジオ等、メディアによる広報を幅広く行い、募集し、セーリング人口の増加、普及に努める。
- (2) 昨今の状況を踏まえ、中高年男女を対象にしたセーリング体験を企画実行
- (3) セーリング体験参加者に JSAF の会員となる登録条件について考案し、実施に努める。実施内容: 平成 21 年 7 月中旬予定、参加者約 100 名、講師 30 名、スタッフ 10 名、使用艇ヤマハ 30 フィートクルーザー等

2. 「チャイルドルーム

- (1) 平成 21 年新潟国民体育大会にて実施
- (2) 平成 21 年千葉国民体育大会リハーサル大会にて実施予定。実施内容: 場所セーリング競技会場内、レディース委員 2 名、保育士 5~6 名
- (3) 全日本学生女子ヨット選手権、セーリング体験、その他の大会会場にて実施予定。実施内容: 大会会場、レディース委員若干名、大会役員並び競技役員

3. 対外活動

- (1) JOC 女性専門委員会、ジュースの会、等の会合に積極的に参加し、他のスポーツ団体情報交換を行い、今後のレディース委員会の発展に役立てる。
- (2) JOC キャリアアカデミー事業と連携し、女性選手の引退後のあり方について検討
- (3) 女子種目のセーリング競技大会等の実行委員会との連携を計り、女性役員が主流となる大会をマネジメントし、有能な女性委員を派遣することに協力する。
- (4) 国際委員会との連携により、より迅速な情報を得、女性役員のあり方、継続性、女性セーラーの普及(国際的に通用する)増加につとめ、又アジアに於ける女性役員、セーラーの支援に貢献する。
- (5) 各水域とのネットワーク作り(アイデア、横のつながりを持つ)
- (6) 女性の目線で熟考し、特命事項関連の事業に新しい企画など発案し(例: パーテ

- イー等イベント企画) JSAF の発展, 資金調達に貢献する。
- (7) セクシャルハラスメント等、女性の人権に関する事項。

医事科学委員会 (委員長: 山川雅之)

1. アンチドーピングに関する事項
2. 競技会における救護に関する事項
3. 安全の講習および公認コーチ講習に関する事項
4. 海外派遣選手に対する医学的指導、医師帯同に関する事項
5. 公認スポーツドクター、公認トレーナーに関する事項
6. トレーニングに関する事項
7. 選手の栄養に関する事項
8. その他特命事項

外洋統括委員会 (委員長: 古川保夫)

外洋財務・会計委員会 (委員長: 鈴木保夫)

1. 各委員会の会計報告が速やかにできるようにする。
2. 予算執行の適正な管理を行う。

外洋法制委員会 (委員長: 渡辺康夫)

1. 全国外洋艇体験乗船の規則の普及を図る。
2. 日本小型船舶検査機構 (JCI) 関連項目
 - (1) 定期的な会議 (小型船舶関係懇談会、年数回) を行う。
 - (2) 小型船舶検査に関し世界の標準と日本の特殊性について徹底的に議論すると同時に相互理解を高める。
3. 国土交通省のプレジャーボート安全利用情報システムの構築に答申する。
4. 小型船舶備品の規制撤廃と、製品供給に関するキャンペーンを図る。
5. 国際海洋汚染防止条約の規制が世界では高まっている、日本セーリング連盟としての海洋汚染、環境対策への対応と啓蒙する。
6. 係留保管場所確保への対応を図る。
7. FRP 廃船リサイクルコース、廃船処理に向けた対応をする。

外洋安全委員会 (委員長: 浪川 宏)

1. 外洋安全思想の普及を図る。
2. JSAF 特別規定の普及を推進し、特別規定カテゴリー登録の促進をする。
3. 各水域での特別規定 B 講習会の実施を促進する。
4. 小型船舶検査と特別規定カテゴリー宣誓との関連を調整する。

5. 安全トレーニング制度の拡充を検討する。

外洋計測・技術・ハンディキャップ委員会（委員長：林賢之輔）

1. 法制委員会と協力し、規制緩和に向けて、JCI に意見具申する。
2. 前年に続き、ISO 関連の作業に協力する。
3. IRC 小委員会と協力して、IRC の普及に努める。
4. JSAF 独自の PHRF の研究開発を目指す。
5. 委員会メンバーを再編成し明確にする。
6. 日本 ORC 協会との円滑なコミュニケーションを図り協力体制を探る。

IRC 小委員会（委員長：鈴木一行）

IRC 小委員会事業計画：導入後 4 年目を迎える拡大を IRC レーティングの会員、オーナーのための活動を継続する。

1. IRC レーティングスムーズな発行
2008 年度は、約 120 艇、150 枚の証書発行を行った。
2009 年度は、約 200 艇、250 枚以上の証書発行を予定している。
業務量の増大による スムーズな証書発行のための対応策の実行。
レーティングオフィス中心に人員強化および業務システムの効率化の実行
具体的にはインターネットによる WEB 入力によりシステム構築
2. IRC レーティング計測関連の充実
IRC の計測員の人と技術の充実を行う、とくに計測委員会との連携による計測員の講習会など随時行い、人の輪を増やしていく。
3. IRC プロモーションの実施
楽しいレースがなければ IRC の普及はないとの理念で 各地の楽しいレースでの IRC の採用および普及活動を活発化する。
4. IRC 年次総会への人の派遣
2009 年 10 月フランスで予定されている IRC 年次総会への派遣
5. ISAF2009 釜山
RORC よりの釜山へ来訪、韓国もしくは日本で打合せを予定
6. 5 月アリランレースなど主要レース支援
加盟団体よりの要望を鑑み、レースの各種支援を行う

外洋レース委員会（委員長：小林 昇）

1. 本格的な外洋レース開催プロモーション活動をする。
2. JSAF レース委員会と連携して外洋レース開催諸規定の整備をする。
3. 外洋レース運営マニュアルの作成・整備を行う。

外洋セイルメジャラー部会 （委員長：八木達郎）

1. JSAF セイルメジャラー更新講習会を関東・関西で開催する（2009年1～2月予定）。
講習内容（ERS及びIRC、ORCのセイル計測に関するルール変更確認）
2. IRCおよびORCクラブのセイル計測マニュアルを修正・変更する。
3. セイルメジャラー部会の名簿改正および役員改選をする。

外洋ルール委員会 （委員長：大村雅一）

1. ルール委員会と連携し、2009年度版外洋レース規則を作成・適用を図る。
2. RRS改定にあわせ、ERSなど外洋レースに関連する変更点を把握、理解と外洋メンバーに向けた啓蒙を図る。

外洋国際委員会 （委員長：鈴木一行）

1. RORC総会へ担当者を派遣する。
2. 国際的なセーリング情報収集およびその情報の迅速な提供を行う。

外洋通信委員会 （委員長：足立利男）

1. レース委員会・法制委員会と連携して外洋レース使用通信手段の次世代展望を調査検討する。
2. 現行通信手段（国際VHFを含む）の評価と、必要であれば再構築を検討する。
3. 既存VHF無線局設備の適正な維持及び運営、およびレース運営に使用するための機器貸し出しを行う。
4. 海上におけるインターネット通信、GPSデータ通信など新しい通信手段の調査・検討を行う。

ナショナルトレーニングセンター委員会 （委員長：山崎達光）

1. ナショナルトレーニングセンターの有効活用を研究する。

特命チーム

普及委員会 （委員長：水谷益彦）

1. 日本財団助成事業である
 - (1) ジュニア・障害者・レディース・セーリング体験教室
 - (2) 教職員セーリング指導者養成講習会
 - (3) ファミリーレースの3事業を加盟団体に委嘱実施し、セーリングの普及を図る。
セーリング体験教室 5箇所

教職員セーリング指導者養成講習会 3箇所

ファミリーレース 7箇所（ファミリーレースにおいて、著名招待選手の出場を企画し、PR・話題提供を行い、セーリングの普及を図る。

2. 全国ヨットハーバー・マリーナ・指定管理者連絡協議会を開催し、各地の実情を報告検討し、課題、問題点等を競技するとともに、今後新規に指定管理者を目指す団体にも情報提供を行い、交流しセーリングの普及を図る。
3. 地方において特色があり、かつ効果的な普及事業を調査し、これを J-SAILING 等で紹介発表し、セーリングの普及を図る。

関係組織協力委員会（委員長：長田美香子）

1. 国体開催期間の変更に伴い各クラス別協会における影響と日程の調整。
2. ヨット普及を考えヨットの楽しさ、ヨットレースの面白さを一般に広めるための方法を模索し、時にはメディアを使い各団体の理解と協力で事業を考える。
3. ヨット普及に伴い会員の増強を図る。
4. ゴールドプランにあるように、ジュニアから一般までの一環強化システムの構築を関係団体と調整し確立する。
 - (1) ジュニアクラブレースへの協力体制づくり
 - (2) クルザーレースの協力方法の検討
 - (3) ウインドサーフィン大会への協力方法の検討
 - (4) 高体連・学連との調整、他
 - (5) 各クラス別協会との調整
 - (6) 各県連・クラブ等の行事への協力方法の検討

IT対策委員会（委員長：前田彰一）

1. メンバースカードの変更
現状シールでの対応を止め、単年度カードとする。
2. メンバー区分に大学生を追加する
それに伴う、メンバー登録システムの変更を行う。

会員増強委員会（委員長：松原宏之）

登録料の改定や景気低迷の逆風の中で、イベントの相乗りなど他の委員会との協力を得ながら、会員の増強を計る。新しい会員を探し、流出を減らす。

1. 会員へのサービスの強化
 - (1) レース参加資格の見直しなど、関係委員会と会員増強策を検討・実施
 - (2) 非会員との差別化を含む考察
 - (3) フェロー会員・ファミリー会員などの会員の種類の検討

2. 広報・普及活動

- (1) 非会員への勧告
- (2) 各クラブ・団体のメンバーに対する入会推進活動の強化
- (3) 各委員会構成メンバー、加盟団体役員等に対する会員登録の推進
- (4) 既存の未加入団体などへの働きかけ・啓蒙
- (5) J-SAILING の有効活用

3. 情報活動

- (1) 各団体や水域で行っている会員募集の具体的な例を集め、意見の交換を図り、今後の対策を考察する
- (2) 画一的でなく地域・年齢に特化した情報提供
- (3) ジュニア・県連・高体連・学連間の移行時期に減少させない方策
- (4) 4年会員を単年度の会員に移行させる連絡の徹底

B & G 海洋センター支援チーム（委員長：占部雄三）

平成 20 年度は B & G 海洋センター・クラブ関連の事業として、13 箇所実施（内 3 箇所は 21 年 2～3 月実施予定）児童・生徒 412 名、指導者等 212 名の計 624 名の参加を得て終了した。平成 21 年度は過去 3 年間の実施した実績を踏まえ海洋センター・クラブと JSAF 傘下の各県連盟やジュニアクラブが連携して参加者がセーリング活動を継続出来る方策の協議を進め中长期計画として推進する。

東京オリンピック招致委員会（委員長：山崎達光）

2016 年東京オリンピックセーリング会場の計画・立案および ISAF との調整

特別委員会

オリンピック特別委員会（委員長：山田敏雄）

オリンピック特別委員会（以下オリ特委と称す）は、ロンドン五輪でのメダル獲得、複数種目の入賞を達成目標に、五輪種目の艇種別候補選手の競技力向上を図るために策定した重点方針に基づき事業を実施する。オリ特委は、選手を含め相互の努力によって目標達成ができる組織体制と、JSAF ゴールドプランに基づき世界の上位で戦える日本セーリング界の構築が大きな目標であります。

「平成 21 年度事業計画」

平成 21 年度は北京五輪までに蓄積した選手が強化活動をスムーズに行える環境をより質の高いものにするを第一に以下の事業に取り組めます。

1. 海外派遣事業

(1) JOC 委託事業

(2) スポーツ振興基金重点強化助成事業

・オリンピック 6 種目世界選手権大会派遣

470 級……………8 月・デンマーク

レーザー級……………8 月・カナダ

レーザーラジアル級……………7 月・唐津

49er 級……………8 月・イタリア

RS : X 級……………9 月・イギリス

スター級……………8 月・スエ - デン

・ヨーロッパ遠征派遣 (ISAF ワールド含む) ……4 ~ 7 月・ヨーロッパ各国

・アジアユース選手権派遣……………7 月・シンガポール

・ISAF ワールドユース派遣……………7 月・ブラジル

* 上記 2 事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業

・オリンピックテストイベント派遣 ……9 月 スカンディナ

・セールメルボルン派遣 ……1 月 オーストラリア

(3) スポーツ振興基金助成事業

・470 ジュニア・ワールド選手権大会派遣 ……7 月 ギリシャ

・ISAF ワールドユース選手権大会派遣 ……7 月 ブラジル

* 上記 2 事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業

2. 国内強化事業

(1) JOC 委託事業

(2) スポーツ振興基金重点強化助成事業

・ナショナルチーム強化合宿

オリンピック種目 2009 年度ナショナルチーム強化合宿

・JISS (国立スポーツ科学センター) を利用したナショナルチームフィットネス合宿

・海外優秀選手招聘合宿 (オリンピック種目)

・海外コーチ招聘合宿 (レーザー級)

* 補助金申請 : 海外派遣事業および国内強化事業について JOC またはスポーツ振興基金のどちらに補助申請するかは今後、補助金支給団体との折衝によって決定します

(3) スポーツ振興くじ (toto) 助成事業

・将来性を有する選手の発掘、育成・強化事業

* 本事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業

3. 自主計画事業

- (1) オリンピック会場(ウエイマス)の事前調査事業 …… ベースキャンプの確定
 - (2) ウエイマス気象データ収集・調査事業
 - (2) 2 0 1 0 年ナショナルチーム選考会
 - (3) 国内強化活動事業
 - (4) 海外強化活動事業
 - (5) 海外遠征支援業務
 - (6) 管理関係業務
- 4 . その他
- (1) オリ特ホームページの充実
 - (2) ランキングシステムの推進
 - (3) 和歌山ナショナルトレーニングセンター (NTC) の活用

国体委員会 (委員長：昇 隆夫)

- 1 . 第 64 回国民体育大会新潟国体セーリング競技の準備を推進し、競技方法及び大会運営方法について検討を進め同大会を開催する。
- 2 . 千葉国体リハーサル大会の準備を推進し、大会開催について支援する。
- 3 . 第 65 回国民体育大会千葉国体セーリング競技の大会開催の準備を推進する。
- 4 . 山口、岐阜、東京都、長崎等の国体開催予定地の準備を支援する。
- 5 . 中央競技団体として国体開催予定地の視察及び指導・助言を行う。
- 6 . 日体協の国体改革に合わせ国体及びリハーサル大会の簡素化を進める。
- 7 . 国体イベント事業及び「見せる国体」について支援する。
- 8 . ブロック大会予選について支援する。
- 9 . 各都道府県連盟に国体参加資格規定の周知を行う。
- 10 . 少年種目の中学 3 年生の参加について推進する。
- 11 . 国体ウインドサーフィン級のクラス規則の見直しを行う。
- 12 . セーリングスピリッツ級、国体ウインドサーフィン級の普及活動を支援する。
- 13 . 国体委員会の事業収益について検討を進める。
- 14 . 国民体育大会セーリング競技研修会を開催する。
- 15 . 国体ウインドサーフィン級の年度登録及び管理を行う。

アメリカズカップ委員会 (委員長：山崎達光)

第 33 回アメリカズカップの情報収集および新艇の R&D

環境委員会 (委員長：岡田達雄)

昨年度と同様、JSAF 加盟団体による全日本大会と「海の日」を活用した環境キャンペーンを展開したいと希望しておりますが、1 0 0 年に一度といわれる不景気の中、環境スポ

ンサー獲得が大変難しくなっております。環境委員会としては、引き続きスポンサーの獲得に総力をあげますが、従来の半分程度に終わることが予想されます。従って、全日本大会への補助も下記のように半減することとなります。今後、補助の条件や額に関してはレース委員会と協議の上、決定致しますのでご協力のほど宜しくお願い致します。